

名松線無人走行=設備改善を怠ってきた会社の責任は重い!

冗談じゃない!なぜ運転士だけの責任追求なのか!

運転士を書類送検! これでは真の安全確立とは言えない!

私たちは、会社に改善を求め申し入れてきました!
抜本的ハード対策を行ってこなかったのは、
JR東海経営陣ではないか!

抜本的な設備改善で2度目の事故は防げたはずだ!
短時間でブレーキが緩んでしまう車両構造の改善、
車両留置箇所の傾斜を改善することなど

8月6日、三重県警は、今年4月に発生した、名松線・家城駅での、車両無人走行事故に対して、当該運転士を業務上過失往来危険容疑で書類送検しました。

私たちは、ハード対策・設備改善を怠ってきたJR東海経営陣の責任を棚に上げ、運転士だけに責任を押し付けるこのような対応には反対です。私たちは、運転士に全く責任がないというつもりはありません。ただ、個人の責任追及のみで、真の安全確立はなしえないと考えているのです。

今回の事故は、3年前に同じ場所で発生した無人走行事故を教訓に、考えられるすべての対策・設備改善を実施していれば防げたはずです。そのことを怠った会社の管理責任にこそ、メスを入れるべきです。万が一、ヒューマンエラーが発生しても車両が無人で走行しないような対策を講じていれば、2度目の事故は防げたのです。会社は、抜本的な対策を怠ってきたのです。むしろ責任を問われるとしたら、設備改善を怠ってきた経営陣ではないでしょうか。

8月7日付
中日新聞

| | |
|--|---|
| <p>名松線の無人走行 元運転士書類送検 津市白山町のJR名 松線家城駅で四月、列 車一両が無人のまま八 ・五キロ走行した事故 で、三重県警は六日、 元運転士の男性(50)を業 務上過失往来危険容疑 で書類送検した。</p> | <p>と、「少しの時間なら 大丈夫だと思ったと は四月十九日午後十時 五分ごろ、車両入れ替 え作業のため列車のエ ンジンを開始させた 後、車輪止めを外した まま五分間、車両を離 れ、無人走行させたこと を認め、県警は、 社内規定に車輪止め をしてから車両を離 れるよう決めた項目が あることから、会社の 管理責任は問わず、元 運転士だけを立件し た。</p> |
|--|---|

車両はブレーキが緩
んで走りだし、下り坂
で加速。八・五キロ先の
同市一志町の踏切で止
まった。県警による